

緊急署名 コロナなのに、3月議会で市立病院「廃止」ですか!?

松戸市長 本郷谷 健次様

2022年1・2月

東葛医療圏は、病床が大幅不足です

市立東松戸病院・梨香苑をなくさないでください！

コロナ5波の昨年9月に突然、松戸市が、市立東松戸病院と老人保健施設「梨香苑」を、2024年3月末に廃止する方針をだし、3月市議会で廃止条例を提案しようとしています。国が統合対象と公表した県内12病院の廃止はないと県から聞いていますが、コロナ6波のさなかに市立東松戸病院をわずか半年で廃止とは、県内でも全国でも異例の事態です。

「東松戸病院・梨香苑の存続を求める会」は、2千筆余の署名を市長に届け、地元5地区での説明会では数百人が廃止反対や不安をつよく訴えました。ところが市からまともな回答はなく、市長は一度も出席せず、驚きと不信が広がっています。広報まつどで「松戸市病院事業再編計画(案)へのパブリックコメント(意見募集)1/4～2/3」を知らせてだけで、市民合意なしでの強引な決定は、許されません。

東松戸病院・梨香苑は、重要な役割を果たしています。コロナ対応(ワクチン・検査・入院・後遺症治療)や、回復期・慢性期、リハビリ・がん緩和ケア等、院内の梨香苑と共に、緑に恵まれた立地も活かし、30年間公的医療を担ってきました。県計画でも東葛北部医療圏は、回復期・慢性期病床が2742床も不足で、東松戸病院162床が廃止されたら、不足に拍車がかかり、さらに入院が困難になります。

国は全国で20万の急性期病床を削減しようとしています。千駄堀にある急性期の市立総合医療センターも東松戸病院も、どちらもなくてはならない市民の命を守る砦です。市が廃止の理由とした「赤字」や「施設老朽化」も、医療費を削減し老朽化を放置してきた政治の責任であり、市・県・国が協議をし、現地建替え検討含め早急に改善すべきです。

いま、コロナ感染急拡大と高齢化だからこそ、医療・福祉の体制強化こそ必要です。命と医療を守るため、以下要望します。

【項目】

市立東松戸病院・梨香苑は、コロナ、回復期・慢性期、リハビリ・がん緩和ケア医療等、命を守る砦(とりで)です。廃止しないで存続・充実して下さい。

名前	住所

取り扱い団体・個人